5千年前の暮らしがわかる貝塚

⑭ 植苗貝塚

所在地：苫小牧市字植苗 121 番地の 1

貝塚とは古代人が採取した貝殻や動物の骨などが堆積して層をなしている遺跡であり、当時の食料事情などくらしの様子を知ることができます。

昭和 47（1972）年、道路工事中に発見された「植苗貝塚」もその一つです。

植苗貝塚は樽前山が約 2,500 年前に噴火した時の樽前ｃ火山灰層と約 9,000 年前に噴火した時の樽前ｄ火山灰層の間にあることから、縄文時代に残された貝塚であり、その後の調査で 5,640 年前という結果が出ています。その頃は縄文時代の中でも最も暖かい時期で、今よりも年平均で１～２度、海面水も２～３mほど高かったと言われています。南極や北極の水、ヨーロッパや北米大陸の氷河が溶け、海水が増え、海が内陸深くまで入り込んでいました。植苗貝塚の近くでも同様な出来事が起こっていたと考えられます。

この貝塚からはたくさんの貝殻や動物の骨などが見つかっています。貝殻ではヤマトシジミとウネナシトマヤガイが多く、マガキ、アサリ、オオノガイ、ホタテ、ウバガイ（ホッキガイ）、ハマグリなどもありました。ハマグリやウネナシトマヤガイは暖かい地方の貝で、今よりも温暖な気候だったことがわかります。魚ではスズキやボラ、ウグイ、カサゴのほかにニシン、サケ、カレイ、ヒラメ、珍しいものではサメやブリ、フグなどが見つかっています。毒のあるフグをどのように食べていたのでしょう。動物では、エゾシカやエゾオオカミ、キタキツネのほかにガン・カモやワシ・タカなどの鳥やトドやアザラシ、オットセイといった海獣（かいじゅう）の骨が見つかっています。

この他、貝塚から見つかった土器は、遺跡名をとって「植苗式土器」と名付けられています。ほかに石器も見つかり、ヤジリやナイフ、石オノ、すり石、砥石（といし）のほかに網の重りとして使われた石錘（せきすい）がありました。また、動物の角や骨を加工した道具（骨角器（こっかくき））なども見つかっています。

植苗貝塚は、当時の自然環境や生活の様子を知ることができる貴重な遺跡であり、横６m、厚さ１mの大きさで現存保存もされ見学できるなど、整備保護されています。

写真の解説

1 6～５千年前の陸地と海の様子　2 保存施設内の貝塚の様子　3 復元された植苗式土器　4 植苗貝塚保存施設。屋外からも貝塚が見れるようになっている